

電気のふるさと
産品自慢

富有柿ジャム

岐阜県
本巣市

本巣市は、岐阜県の南西部、福井県との県境にある能郷白山^{のうごうはくさん}から南へ縦長に位置し、自然と人が共生し、快適で心ふれあうまちです。

本市は柿、イチゴ、水稲を主要農作物としており、なかでも富有柿は、全国的にも一大産地として知られ、明治時代から栽培されている特産品です。岐阜県が原産地で、



富有柿ジャムセット

実が大きくて甘く、「柿が赤くなれば医者が青くなる」と言われるほど栄養たっぷりです。

市には、柿の文化を広めようと

お問い合わせはこちら→

・本巣市富有柿の里
富有柿センター
TEL : 058-323-4511

・フルーツ工房糸貴
代表 高橋
TEL : 058-324-0717

「古墳と柿の館」があり、ここでは柿の歴史や品種、柿を呼んだ歌や物語、諺などについて触れることができるほか、大正時代から昭和三十年頃までの農家の暮らしぶりや柿栽培に使われた農機具などを見ることができます。

また、「富有柿をそのまま食べるのもおいしいけど、加工するとまた違ったおいしさが味わえる」ことも知ってもらいたいと、柿を利用した加工品の数々を販売しています。

なかでも、「富有柿ジャム」は、十数年前、柿農家の主婦が集まって、試行錯誤の結果生まれた逸品です。富有柿とグラニュー糖、レモン汁以外は、何も添加しておらず、自然食品そのもの。富有柿とレモンの風味がマッチして、パンやヨーグルト、クッキーなどによく合います。手作りで、しかも癖の無さと珍しさから大好評です。ぜひ一度ご賞味あれ！

電気のふるさと
産品自慢

しこくまい
紫黒米あれこれ

兵庫県
たつの市

平成十七年十月の合併により誕生したたつの市は、播州平野南西部に位置し、北側には山地が広がり、南側は瀬戸内海に面し、南北に貫く形で清流揖保川が流れており、自然環境に恵まれています。

市の特産品である紫黒米は、平成十一年から揖西・神岡地区で生産されています。この紫黒米の濃い紫色には、高い抗酸化性をもつアントシアニンが含まれており、視力改善や老化防止に効果があると言われていません。

白米一合に対し紫黒米大さじ一杯程度入れると「おこわ」に大変身、赤飯のような色味食感が味わえます。

また、紫黒米を原料とした加工品の研究開発が進んでおり、現在では、素麺や寿司、うどん、甘酒、味噌、和菓子、洋菓子、パン、清酒、健康酢などといった十五種類を販売しています。



紫黒米健康酢

お問い合わせはこちら→

・たつの市産業部農林水産課 (販売所) 龍野観光売店「さくら路」
TEL : 0791-64-3157 TEL : 0791-63-9456
(販売所) 国民宿舎赤とんぼ荘 (販売所) 龍野駅前観光案内所
TEL : 0791-62-1266 TEL : 0791-63-9955

特に紫黒米健康酢は、平成十七年度に農林水産省主催の優良ふるさと食品中央コンクールで「農林水産省総合食料局長賞」を受賞しました。

この紫黒米健康酢は、甘味料無添加で伝統の発酵技術により天然クエン酸を多く含み、一般の食酢よりもまろやかで飲みやすい健康酢として親しまれています。

なお、紫黒米、紫黒米素麺、紫黒米健康酢は地方発送できます。お立ち寄りの際には、ぜひお求めください。



紫黒米が練りこまれたパン

販売支援事業

「電気ふるさとじまん市」が ネットモールに出店します！

「電気ふるさとじまん市」のネットモール出店に係るお問い合わせ先は、
(財)電源地域振興センター 販売支援課
電話：03・5405・8119
e-mail：msp@div.dengen.or.jp ㊟

電気ふるさとじまん市 in bidders

電源地域市町村の方々のみならず、首都圏の消費者の方々からも高い評価をいただいております。「電気ふるさとじまん市」ですが、諸般の事情により本年度は開催しないこととなっております。

でもホームページを立ち上げたり、モールの出店されたりと積極的に取り組まれている方もいらっしゃると思いますが、パソコンの扱いに不慣れだったり、高速回線が未整備だったり、なかなか取り掛かれない事業者の方も多いのではないのでしょうか。そこで、当センターでは、「電気ふるさとじまん市」の店舗をネットモールの「ビidders」に出店し、センターが中心となって、電源地域の特産品や名産品をネットモールの上で販売することとしました。



一ヶ月420万人が訪れる! biddersサイト

「Yahoo! JAPAN」に次ぐ業界三位のネットモール事業者であり、一日一六〇〇万ものページビューがあります。また、センターが中心となって運営するため、電子メールのやり取りができれば、特段のパソコン技術がなくても出品・購入することができます。

今年度は試験的な実施ととらえ、一〇〇社三〇〇社程度の参加を見込んで募集をいたしました。予想を遙かに超えるおよそ一六〇社六〇〇社程度の申込みがありました。これは電源地域市町村の方々の「じまん市」への高い評価と期待の裏返しであると事務局職員一同、気持ちを新たにしております。

モール店舗は、年末のお歳暮商戦に間に合わせるため、十一月初めの開店を目指して、鋭意準備作業中です。開店にあたりましては当センターのホームページ等でもご案内をいたしますので、是非一度お立ち寄り頂き、電源地域のじまんの産品をお買い上げください。

本件事業の今年度の申込につきましては、すでに締め切らせて頂いておりますので、ご了承ください。

ネットモールにおける販売の流れ



人材育成事業

あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から

今回は本年七月十九日(水)・二十日(木)に当センターで行われました研修 No.11 「ツーリズムによる地域活性化事例を学ぶ」のプログラムとその中から、初日の講義要旨をご紹介します。

本研修では、はじめに東洋大学の青木辰司教授による基調講演があり、続いて、日本のグリーンツーリズムの先進事例として、

- ①北海道深川市 谷口歩会夢(ファーム) 代表、元気村・夢の農村塾塾長 谷口 保幸氏
- ②秋田県仙北市西木町 農家民宿 泰山堂 藤井 けい子氏
- ③熊本県人吉市 ひまわり亭 本田 節氏
- ④大分県宇佐市 安心院支所 商工歓交課 グリーンツーリズム推進係 係長 河野 洋一氏

と、各方面からお招きした担当講師による事例紹介がありました。当日は、全国の電源市町村から三十三名の参加があり、公演後の情報交流会など、大変実りの多い研修が実施されました。



東洋大学社会学部 教授 青木 辰司氏

【講義】ツーリズムの現状と課題―日英比較を通して―

東洋大学社会学部 教授 青木 辰司氏

■グリーン・ツーリズムについて

グリーン・ツーリズムとは、「緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」というのが農林水産省の定義です。都市側には余暇活動のニーズや自然回帰志向がある一方、農山漁村側には地域おこしのニーズがあり、双方のかけ橋になるのが、「グリーン・ツーリズム」です。マスツーリズムに見られるような通過型の観光ではなく、地域に根付いた地域資源や住人との交流を通じて、田舎暮らしに触れる滞在型を目的としています。グリーン・ツーリズムは単なる「観光」ではなく、また、

■イギリスのグリーン・ツーリズム

次にグリーン・ツーリズムの先進国であるイギリスの取り組みを紹介します。イギリスでは、散歩を楽しむ文化やガーデニングを愛する文化があり、イギリス人の大半は、カントリーサイドで暮らすことを夢見ています。この志向は、比較的裕福な人々が静寂で美しい田園地域を移住地として選択したり、余暇時間の増大によって、グリーン・ツーリズムの社会需要が拡大していったことが原因と言われています。

【イギリス型グリーン・ツーリズムの特質】

- ・小規模民宿は、営業許可取得が容易であるため、空き部屋をB&B民宿(朝食付民宿)として比較的容易に営業できる。
- ・B&B(地方の交流空間としての居酒屋)の整備・充実により、B&B方式の農家民宿が成立しやすい相補性がある。

- ・私的財産を公共的利活用する意識が高いため、一般の田園地帯にも牧草地の間を自由に散歩できる公共遊歩道が普及している。
- ・質の確保について、等級制度を導入している。
- ・静寂で美しい景観、清浄な空気や水といった環境保全への配慮の高さが伺える。
- ・歴史的建造物の価値基準の高さと相続税など権利問題のハードルが高くなく、容易に人に譲れる。これにより日本に見られるような空家状態が少ない。

■日本型グリーン・ツーリズムの課題

日本全国各地の農家民宿やワーキングホリデーなどを取り入れた多くの実践地では、行政が果たす役割が非常に大きいと思われる。立ち上げ段階で、行政が主体となって啓発・普及に努め、主体的な実践者を幅広く集めます。それを地域全体(行政、議会、地域組織、各種団体等)で支援する体制や制度を作ることが肝要です。そして、ある程度住民の主体的な実践が、組織的なものになった時点で、後方支援に回るといった「行政主導・後方支援」の推進が日本のグリーン・ツーリズムの推進にとって、現実的な実効を有していると言えます。

「エネルギープラザ2006 in 玄海町」開催のお知らせ

平成十八年十月三十一日(火)から十一月二日(木)までの三日間、佐賀県玄海町において「エネルギープラザ2006 in 玄海町(主催:玄海町、経済産業省 後援:佐賀県、唐津市 実施主体:財)電源地域振興センター」を開催します。

プログラムは、初日に開会式と講演会、交流会(交流会は玄海町と電源地域振興センターの共催)を、二日目は地域振興事業検討会・分科会を、三日目は玄海原子力発電所や三法交付金施設を巡る実地研修を行います。

二日目の地域振興事業検討会・分科会では、「地域資源開発」「地域経営戦略」といった切り口から電源地域の今日的課題を考えます。また、「玄海町をケースと

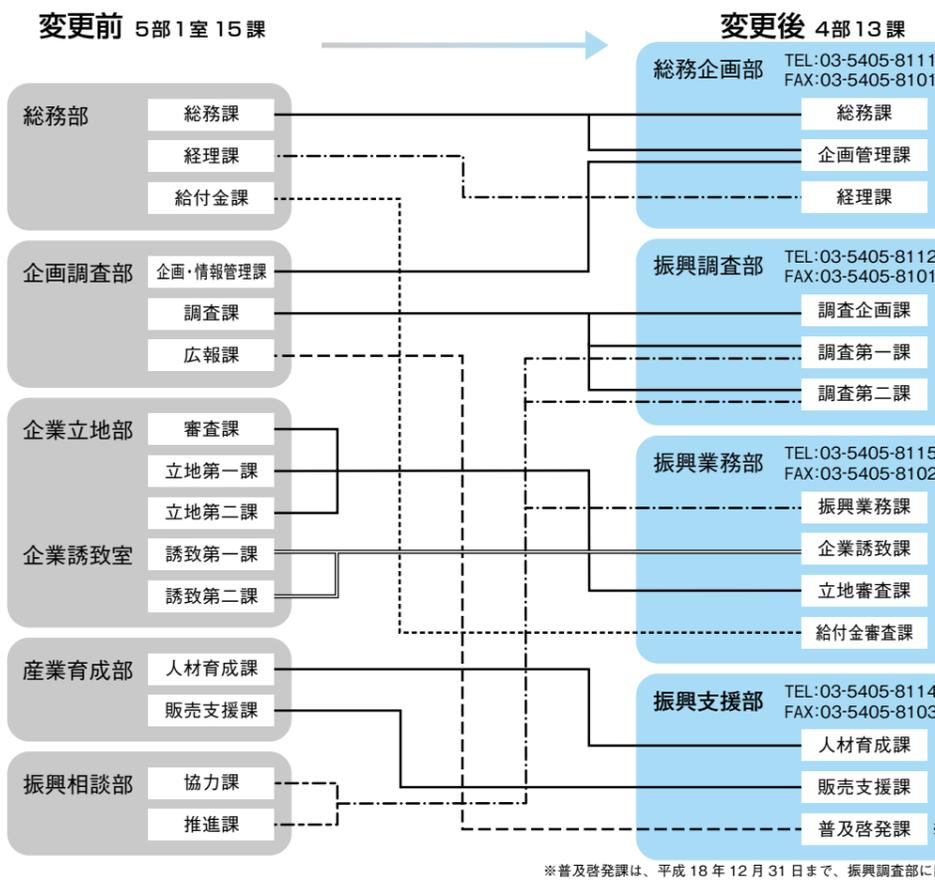


玄海町 浜野浦の棚田(佐賀県 伊万里市 徳田武久さん撮影)

■お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター 普及啓発課
 電話:03-5405-8112
 e-mail:kouhou@div.dengen.or.jp
 まで

(財)電源地域振興センターの組織が変わりました

当センターは、平成十八年七月一日に組織改編をいたしました。新しい体制と連絡先は左図のとおりです。



【読者プレゼント】

今号の「電源地域のサクセスストーリー」でご紹介した北海道東川町のご厚意により、「東川産米缶 ほしのゆめ」を五名様にプレゼントいたします。とじ込みのアンケートハガキに本紙へのご意見・ご感想などをご記入の上、十月二十日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



【ほしのゆめに関するお問い合わせ先】

東川町役場 特別対策室
 北海道上山郡東川町東町一丁目十六番号
 TEL:0166-821-2111

【編集後記】

地域振興の成功のポイントの一つに、「地域の利点や資源を分析し活用すること」があげられます。今号でご紹介した北海道東川町は、大雪山国立公園というすばらしい景観を資源と捉え、大衆性と芸術性を兼ね備えた写真を切り口として、写真文化による町づくり、生活づくり、人づくりを目指しました。文化を育む取り組みは、継続が大切です。町長以下皆さんの様々な継続の努力が今日の「写真の町」東川町を作り上げたのです。本誌では皆様の地域振興に係る取り組みに少しでもヒントになるような事例を今後とも継続してお伝えしていきますよう努力していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。(S)

from the Center

人事往来

経済産業省(平成18年6月～平成18年7月分)抄			
◆平成18年6月5日付			
氏名	(新)	(旧)	
鈴木 洋一郎	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 原子力発電立地企画官 兼原子力発電立地対策・広報室長	大臣官房付	
岡野 克弥	経済産業政策局地方調整室長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 原子力発電立地企画官 兼原子力発電立地対策・広報室長	
◆平成18年6月29日付			
氏名	(新)	(旧)	
鎌倉 正次	中部経済産業局電力・ガス事業 北陸支局長	大臣官房会計課監査官	
笠原 彰	大臣官房付・退職	中部経済産業局電力・ガス事業 北陸支局長	
◆平成18年6月30日付			
氏名	(新)	(旧)	
岡安 賢二	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 原子力広報官 兼原子力発電立地対策・広報室付	資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部 省エネルギー対策課長補佐	
畑中 耕一	退職	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 原子力広報官 兼原子力発電立地対策・広報室付	
◆平成18年7月10日付			
氏名	(新)	(旧)	
望月 晴文	資源エネルギー庁長官	中小企業庁長官	
小平 信因	退職	資源エネルギー庁長官	
平工 奉文	資源エネルギー庁次長	製造産業局次長	
細野 哲弘	製造産業局長	資源エネルギー庁次長	
舟木 隆	資源エネルギー庁電力・ガス事業部長	大臣官房審議官(経済産業政策局担当)	
安達 健祐	大臣官房総括審議官	資源エネルギー庁電力・ガス事業部長	
生越 晴茂	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 電力基盤整備課 電力流通対策室長	九州経済産業局総務企画部総務課長	
岩野 宏	製造産業局非鉄金属課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 電力基盤整備課 電力流通対策室長 産業技術環境局大学連携推進課長	
中西 宏典	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課長 特許庁総務部総務課長補佐	
櫻田 道夫	産業技術環境局基準認証政策課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課長 特許庁総務部総務課長補佐	
波留 静哉	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 核燃料サイクル産業立地対策室長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 核燃料サイクル産業立地対策室長	
鎌田 光治	四国経済産業局産業部長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 核燃料サイクル産業立地対策室長	
久貝 卓	近畿経済産業局長	大臣官房会計課長	
	同局総務企画部長に併任		

経済産業省(平成18年6月～平成18年7月分)抄			
◆平成18年7月10日付			
氏名	(新)	(旧)	
福水 健文	大臣官房地域経済産業審議官	近畿経済産業局長	
長谷川 英一	東北経済産業局長	経済産業政策局地域技術課長	
本部 和彦	大臣官房審議官(エネルギー・環境・国際博覧会担当)	東北経済産業局長	
宮下 英治	中国経済産業局長	貿易経済協力局貿易管理部 貿易管理課長	
奥村 和夫	大臣官房付	中国経済産業局長	
深野 弘行	北海道経済産業局長	大臣官房審議官(地球環境問題担当)	
内山 俊一	製造産業局次長	北海道経済産業局長	
脇本 真也	関東経済産業局長	特許庁審査業務部長	
高橋 武秀	大臣官房付・退職	関東経済産業局長	
川口 修	九州経済産業局長	中小企業庁長官官房参事官	
松井 哲夫	中小企業庁経営支援部長	九州経済産業局長	
◆平成18年7月31日付			
氏名	(新)	(旧)	
和田 真佐人	資源エネルギー庁電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課 原子力地域広報対策室長	防衛施設庁施設部施設企画課付	

電源立地都道府県知事(平成18年5月～平成18年7月選挙分)

県名	氏名	当選月日
滋賀	嘉田 由紀子	7月2日

電源地域市町村首長(平成18年5月～平成18年7月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
美波町(徳島)	藤井 格	5月14日
五ヶ瀬町(宮崎)	飯干 辰己	5月16日
朝日町(富山)	魚津 龍一	5月16日
東成瀬村(秋田)	佐々木 哲男	5月16日
江津市(島根)	田中 増次	5月21日
別府市(大分)	浜田 博	5月21日
巨野町(宮城)	齋藤 邦男	5月21日
野迫川村(奈良)	高田 幸篤	5月23日
西浅井町(滋賀)	熊谷 定義	5月30日
大野市(福井)	岡田 高大	6月18日
稜町(宮崎)	前田 穰	6月18日
黒石市(青森)	鳴海 広道	6月25日
大町市(長野)	牛越 徹	6月25日
大竹市(広島)	入山 欣郎	6月25日
津南町(新潟)	小林 三喜男	6月25日
六ヶ所村(青森)	古川 健治	6月25日
宮津市(京都)	井上 正嗣	7月2日
加古川市(兵庫)	樽本 庄一	7月2日
山北町(神奈川)	瀬戸 孝夫	7月9日
苫小牧市(北海道)	岩倉 博文	7月9日
尾花沢市(山形)	小野 紀男	7月9日
白馬村(長野)	太田 紘熙	7月9日
玄海町(佐賀)	岸本 英雄	7月23日
和歌山市(和歌山)	大橋 建一	7月30日
寄居町(埼玉)	津久井 幹雄	7月30日